



岡本眞利子 議員
(政清会)

問

近年、高度経済成長長期に整備された社会資本の多くが更新時期を迎えることから施設の老朽化に苦慮されている。道路に穴が空いている、公園の遊具が壊れているなど住民からの不良箇所の通報は町にとって重要な情報である。課題解決のため来訪や電話で通報の他、スマートフォンやPC（パソコン）から通報できるシステムの運用について以下伺う。

- (1) 町道の維持管理
 - ① 直近のポットホール発生件数
 - ② 春先と通常期のパトロール数の頻度差
 - ③ 歩道の点検・修繕の目安
 - ④ 年間、住民からの通報数
 - (2) 公園の維持管理
 - ① 定期点検の頻度
 - ② 遊具の危険箇所の通報件数
 - (3) システム導入についての考え
- 町長**
- (1) ①春先の雪解け時期に多く発生する舗装のポットホールについて、令和4年度では約700個分を修繕した。

問 LINEを活用した道路・公園等通報システムについて

答 事後的対応から予防保全的対応に転換して計画的に取り組んでいる

② 季節による差はないが、凍上被害が多い路線は、春先に重点的な巡回を実施している。

③ 通常・定期巡回での目視確認、情報提供を元に土木課職員が現地確認し、危険性や緊急性を判断し、適宜、修繕を行っている。

④ 電話などの通報が、令和2年度133件、3年度161件、4年度105件となっており、町内会からの要望が、令和2年度13件、3年度17件、4年度が12件となっている。

(2) ①専門業者による定期点検を年1回、土木課職員による巡回を月1回程度、実施している。

② 令和2年度は0件、3年度は3件、4年度3件で、いずれも電話によるもの。

(3) 現在、総務課を中心に自治体デジタルトランスフォーメーション(DX)を推進すべく、全庁的な取組を進めており、LINEの活用も検討している。「道路・公園通報システム」についても、導入に向けた検討を行っていく。

再質問 行政の目の届かない問題箇所を住民が即時に通報でき、24時間365日 開庁時間を待たずに通報できるシステムは行政サービスの一環として考えられないか。

答 LINEによる通報システムについては、以前から帯広市、芽室町とも情報交換しており、その有効性について検証しているところである。匿名通報のため、修繕について回答ができず、経過観察している箇所について、何度も通報が来ることもある。

写真を含めた情報を24時間受けられることは、有効であると考えられる。

問 带状疱疹ワクチン接種への助成について

答 国の定期接種化が第一

問

带状疱疹は高齢者が発症するリスクが高く帯状疱疹後神経痛になる可能性もあるため予防が重要である。带状疱疹のワクチンは2種類あり接種費用が

高額のため良いとわかっていても受けられないというのが現状である中、町としての見解を伺う。

町長 「带状疱疹ワクチン」接種は、国の定期接種化が第一と考えており、現在、国は引き続き検討が必要としていることから、議論を注視していく。

本町においては、「带状疱疹」発症の原因となる免疫力低下に陥らないよう、健康教室や栄養指導、体操教室などの健康づくりを呼びかけていきたい。

再質問 一番苦しんでいる方に町が手を差し伸べる支援が必要と考えが見解は。

答 「带状疱疹ワクチン」は定期接種化されておらず、疾病の多さ、罹患率、死亡率、治療日数、医療費など、リスクは一定程度明らかになったものの、ワクチン接種により期待される効果、最適な年齢については、まだ研究の余地がある。ここをしっかりと解明して、国において措置すべきものである。

